

長野農業農村支援センターだより

令和7年4号

長野地区特定家畜伝染病防疫演習を開催しました！



10月27日、千曲市戸倉体育館を会場に「長野地区特定家畜伝染病防疫演習」が開催されました。この演習は、高病原性鳥インフルエンザや豚熱（CSF）、アフリカ豚熱（ASF）など、家畜伝染病の発生に備え、毎年関係機関が一堂に会し、現場対応を確認する訓練です。

今年度は、豚熱・アフリカ豚熱の発生を想定し、養豚場での作業手順、防護服の着脱、畜産関係車両の消毒方法などを実際に体験しました。

今シーズンは例年より早く、野鳥や養鶏場で鳥インフルエンザの発生が確認されており、隣接する新潟県や群馬県でも発生が報告されています。

家畜伝染病は畜産経営にとって深刻な脅威であるため、畜産農家の皆さんには飼養管理基準の遵守を繰り返しあお願いしています。

これらの病気の媒介要因となるのは、野鳥やイノシシなどの野生動物です。さらに、荒廃農地の放置は野生動物の出没を招き、感染リスクを高めるため、地域全体での管理強化が重要です。

今回の演習を通じ、関係機関の連携と現場対応力の向上が確認されました。今後も家畜伝染病に対する危機意識を高め、地域一体となった防疫体制の維持・強化が求められます。

発行 長野農業農村支援センター 技術経営普及課

〒380-0836 長野市大字南長野南県町 686-1

電話 026-234-9536 FAX 026-235-8393

Eメール nagano-aec@pref.nagano.lg.jp

URL <http://www.pref.nagano.lg.jp/nagachi/nosei-aec/index.html>

目 次

○農作物の生育状況	1
○特集 「りんご高密植栽培三相調査の取り組み事例」	3
「鳥獣被害の対策」	5
○新規就農者の紹介	9
○地域のできごと	10
○今後の予定	12
○情報提供	



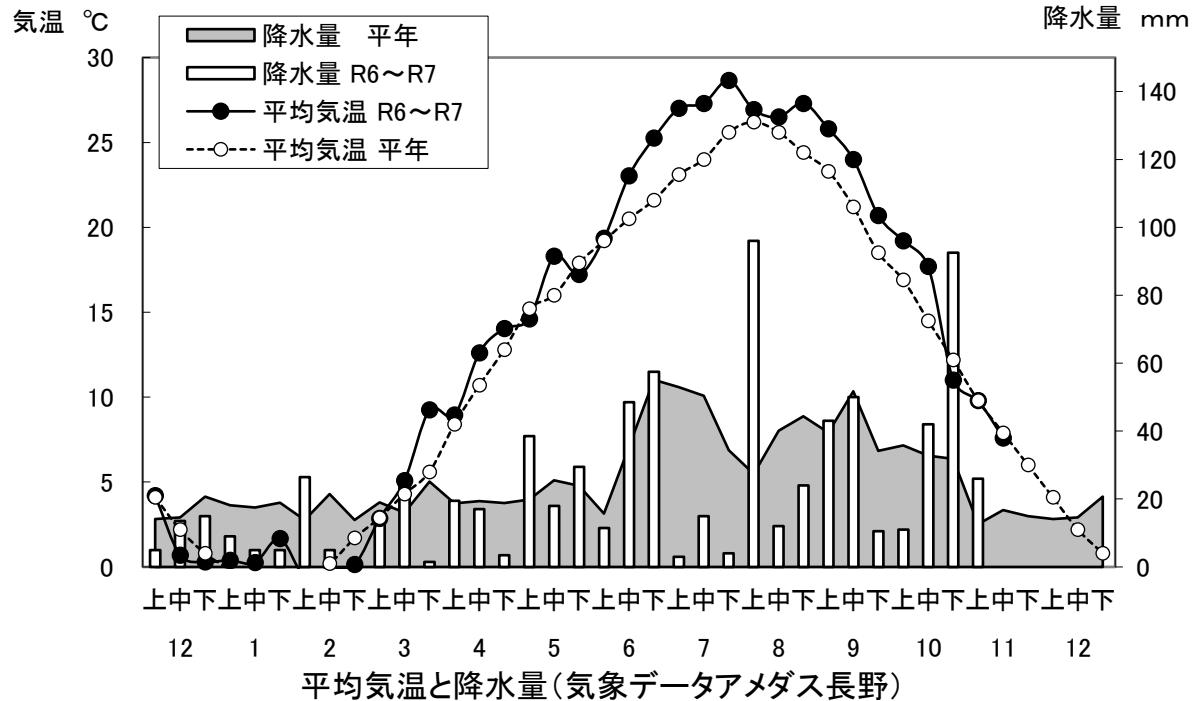
支援センターだより H P

農作物の生育状況（11月15日現在）について

令和7年11月15日

長野農業農村支援センター

【気象データ】



【作物】

(1) 水稻

一部を除き収穫はほぼ終了し、収量は平年並み。高標高地域では、平年並に近い一等米比率となつたが、千曲、長野平、グリーン長野管内は白未熟粒が多く、1等米比率が大幅に低くなつた。また、須高、信濃町では斑点米による等級落ちが平年より多い。

(2) 大豆

10月下旬から収穫が始まった。千曲市や長野市南部ではこれから本格的に収穫が始まる。無防除のほ場を中心に虫害により子実が食害を受けたり、肥大不良となつたりしているほ場が散見される。また、干ばつによる青立ちも目立つ。

(3) ソバ

収穫は11月上旬にほぼ終了した。戸隠は倒伏ほ場を中心に収量が低くなつた。千曲市は高温により、花落ちが悪く、収量が大きく減収となつた。信濃町は倒伏や初期の湿害に合つたほ場で減収となつた。

(4) 麦

10月下旬からは種が始まり、出芽状況は良好。

【果樹】

(1) りんご

「シナノゴールド」では夜蛾の被害が散見され、平年よりも多くなった。また、9月～10月の降雨の影響から「シナノゴールド」、「ふじ」で果面の横方向に軽微な裂皮の発生が見られる。「ふじ」では気温の低下にともない着色は徐々に進んできているものの、色上がりはもう一歩といったところ。外観に対して内部の熟成や蜜入りは順調に進んでいる。

【野菜】

(1) アスパラガス

株養成も終盤となり茎葉の黄化が始まる。例年より、黄化が遅い傾向にあるが、遅いほ場では地上部の刈り取りを遅らせたい。

(2) 果菜類

露地ピーマンは、11月に入っても収穫できていたが、霜や低温の傾向で生育がとまり、ほぼ終了となる。

(3) ナガイモ

収穫が始まる。長さは平年より長く、直径は細い傾向。

【花き】

ユーカリは11月に入り、出荷が本格的となっている。昨年度多発した斑点性病害の発生は少なく、生育は順調。

りんご高密植栽培における三相調査の取り組み事例

➤ 背景とねらい

長野農業農村支援センター管内では、りんごの樹体の小型化と低樹高化による省力化、早期多収を目的として、わい性台木であるM. 9台木を用いた栽培が進められてきた。一方でM. 9台木樹は、凍害に伴う枯死樹の発生がマルバカイドウ台木樹よりも多いとされ、特にシナノリップ/M. 9台木樹は他の品種と比較しても、凍害に伴う枯死樹の発生が多い傾向がみられた。そこで、令和4~5年にかけてシナノリップ/M. 9台木樹園地を対象に土壤の物理性および樹体生育に関する調査を果樹試験場と共同の上、25園地で行った。

➤ 令和4~5年調査から得られた成果

1 凍害枯死率の年次間差

令和4~5年の単年度枯死率を調査したところ、凍害に伴う枯死樹の発生は年次間差が大きく、気象要件にも影響されることが推察された。

2 樹体生育と単年度枯死率

ターミナルシュート長が20cm未満と短い園地では凍害発生率が高く、相対的に成木率が低下する傾向にあった。

3 土壌物理性と単年度枯死率

地下20cm部の土壤コアの採取による土壤物理性の調査を行ったところ、固相率45%以上が高い園地は、凍害発生率が高くなる傾向になった。

4 土壌排水性と単年度枯死率

簡易な下層透水性診断により土壤排水性を調査したが、単年度凍害発生率との相関は確認できなかった。

➤ 適地への高密植栽培の普及

令和5年までの調査で、凍害発生を低減するにはターミナルシュート長を20cm以上で維持することや、新たにM. 9台木樹を定植する際は土壤の固相率が高い園地を避けた方がよい等のデータが示された。そこで、令和6年以降は適地への高密植栽培の普及を図るため、今までに得られた成果を生産者や技術者に対し情報提供した。

1 調査結果報告会の開催

JA北信果樹技術員会や生産者団体等に対し調査結果の報告を行った(令和5年から6年にかけて延べ5回)。結果、今後の栽培管理や新植する際の注意点について理解が深まった。

2 定植前固相率調査手法検討会の開催

M. 9台木樹を定植する際に予定地が適地かどうか確認することを普及するため、JA北信果樹技術員会りんご担当技術者に対し、新植する前に、地下20cm部の土壤コアを採取して土壤固相率を調査する手法について、実技と調査に必要な道具の紹介を行った。

3 土壌固相率の個別診断

M. 9台木樹の新植に際し、事前に長野農業農村支援センターに相談のあった生産者及び団体に対し、定植予定ほ場の土壤固相率を調査している。現在までに10件ほどの相談があり、固相率が高く不適地と判断されるほ場については、栽培方式の見直しや土壤改良手法について指導を行った。

➤ 今後の課題と対応

M. 9台木樹の不適条件が明確になってきたため、関係機関や生産者から調査依頼があった際は固相率や透水性診断を実施する。また、JA技術員単独でも調査できるよう支援を引き続き行う。また、適正な樹勢を保つための栽培管理手法の検討を進めることで、関係機関と連携して適地での栽培を推進する。

➤ 固相率を調べるための土壤採取手法と必要器具



1 深さ 20 cm程度の穴を掘る



2 穴の側面の土を一部取り除く



3 採土缶を埋め込むためのスペースを作る



4 採土缶を置き、その上から採土補助器をかぶせる



5 採土缶が埋まるまで採土補助器をハンマーで打つ



6 スコップで回りの土と一緒に採土缶を掘り起こす



7 採土缶摺り切りいっぱいになるよう余分な土を落とす



8 採土缶(容積100ml)のフタを閉め、フタが開かないようにテープで固定する

9 土を持ち帰り、生土の重さを測定する
↓

土を乾かす(2週間程度)
↓

乾いた土の重さを再度測定する。
↓

100ml 容積あたりの乾土重に固相率換算係数(0.3863)を掛け、固相率を推定する。
↓

固相45%(117g/100ml)
以上の場合は、M.9台木樹の定植の再検討等を提案する。

鳥獣被害の対策について

廃果は放置せず
適切に処理



柿は全て収穫
放置された
木は伐採



地域全体で被害
防止に取り組む



放置した
果樹・
野鳥の
エサは
廃果は

エサの管理は一番重要な被害対策です

- ① 野鳥にとって、食べものの少ない冬は大変厳しい季節です
- ② 冬にエサとなる廃果が多いと、生存率が高まり数が増えます
- ③ 野鳥の数が増えれば、農業被害も増加します

鳥害を防ぐには

まずは相手を知ろう

カラス 生態

- ・ハシボソガラスとハシブトガラスがいます
- ・どちらも長野県全域に分布します
- ・県北部ではミヤマガラスも越冬します
- ・ハシボソは田畠でよく見られます
- ・ハシブトは市街地や林でよく見られます
- ・繁殖期は3~7月で樹上等に営巣します
- ・雑食性で昆虫や種子、果実、動物の死がい、卵や雛、生ごみや残飯等何でも食べます
- ・子育てが終わると群れ、冬に大きなねぐらを形成します

被害等

- ・果実、野菜、穀物、飼料用作物等
- ・ニワトリの卵
- ・ビニールハウスを破る



鳥のマメ知識

- ・鳥は人の見えない紫外線や偏光が見えます。
- カラスは赤、青、緑のほか、人の見えない紫外線を見ることが出来ます。人が中を確認できるように、ゴミ袋は半透明になっています。紫外線を遮断する袋を使えば、人は袋の中を確認できますが、カラスは色を識別できなくなります。紫外線を遮断する袋は黄色ですが、黄色の袋であれば何でも良いというわけではありません。
- ・普通200Hz~800Hzの音を聞きます(ヒト:20Hz~20kHz)
- なわばりを作る場合の行動範囲は、カラスは直径数百m、ヒヨドリは100mくらいです。
- ・本能的に嫌がる音は無く、警戒音もウソを見破り慣れてしまいます。鳥は嫌々な種類から、嫌々な能力を持っています。

鳥類の被害を最小限にする鉄則

鉄則1 「寄せ付けない！」

- 収穫後に残った果樹、摘果や落下した果樹は速やかに撤去し農地をエサ場としない。
- 家庭から出た生ゴミなどをエサとしてカラス類が集まることがあるため、コンポスト容器を使用しふたをきちんと閉める、決められたゴミの収集日に出すなど適切に処理する。
- 収穫しない野菜や果実だけでなく、すでに被害を受けた農作物も農地に放置せず、堆肥化や堆肥へのすきこみ等適切に処理する。

鉄則2 「侵入を防ぐ！」

○防鳥ネット（鳥類共通対策）

作物の種類や栽培規模により設置に係る労力・コストを十分考慮し設置の可否を判断する。
被害を及ぼす鳥類によって適正な網目の大きさのネットを用いる。(ヒヨドリ・ムクドリは3cm以下)
ネットと地面の間に隙間があると、中に入り込んでしまうため、隙間ができないようにする。

○テグス等防鳥糸（カラス対策）

カラスは防鳥糸で防ぐことができる。

防鳥糸を使用する場合は、カラスが翼を広げた長さ（1m）より狭い間隔で張る。

ヒヨドリ 生態

- ・県内では一年中見ることができます
- ・木のあるところはどこでもいます
- ・繁殖期は5~8月で木の枝に巣をかけます
- ・年に2~3回繁殖します
- ・春や秋には群れで渡ることがあります
- ・冬には大きな群れになる事があります
- ・雑食性で果実、花や蜜等甘いものを好みます
- ・新芽や若葉も食べます

被害等

- ・果実、野菜等



ムクドリ 生態

- ・県内では一年中見ることができます
- ・繁殖期は3~7月に1~2回繁殖します
- ・樹洞や戸袋等の隙間に巣をかけます
- ・夏から冬にかけて集団で眠ります
- ・雑食性で昆虫やミミズ果実等を食べます

被害等

- ・果実(糖度が高く果肉が柔らかいもの)
- ・カンキツ類では被害はありません



鳥害対策にとって重要なこと

- ・バードブレイン(Bird Brain:鳥の脳)は、愚か者をさす言葉として使われてきました。しかし、最近の研究から、鳥たちはかなりの知能を有していることがわかっています。
- ・鳥害対策も簡単ではなく、高度な知恵比べが必要になります。警戒声を流しっぱなし、タカの模型をつけっぱなしでは、いずれ慣れてしまいます。そのため、最も重要なことは、被害を与える鳥の数を低く抑える対策(施設などに寄せ付けない対策)、侵入を防ぐ対策です。

イノシシ



遊休荒廃地対策が
とても大事！



知りたいイノシシの生態

『群れ』 … オスは単独、メスは子や姉妹の5～10頭位の群れで行動します。

『からだ』 … 助走をせずに高さ100cmを越える跳躍力と、50kgを鼻で持ち上げる力の持ち主です。視力はあまり良くないがとても鼻が利き、**鼻と眼で危険を察知します。**
とても慎重で臆病な性格をしています。
奥行きのある障害物は越えようとしません。

『食べ物』 … 人が食べる物ならなんでも食べる雑食性です。水田に多いミミズや、根もの野菜などを好みます。**遊休荒廃地のとなりにある水田や畠も最適な餌場です。**

『生活』 … 本来は扈行性なので、危険(人、狩猟)がなければ**扈間も活動します**。餌場（落葉広葉樹林、**遊休荒廃地**、ぬた場、竹林）に数日滞在し、次の餌場を求めて移動します。
2歳で出産し、以後毎年出産。1～2月に交尾をし、5～6月に平均4～5頭産みます。
寿命はオス6歳、メス10歳位です。

イノシシの被害を最小限にする鉄則3

鉄則1「餌場としての価値をなくす」

一度侵入した田畠は安全なところと考えて餌場にして執着します。最初の侵入を防ぐことが肝心！集落でパトロールをし、餌付けや作物残さの放置禁止はもちろんのこと、遊休荒廃地の除草・藪払いを徹底しましょう。

鉄則2「田畠を集団化し電気柵で守る」

イノシシの習性を活かした効果的な防除方法は電気柵や柵電気柵：1反(約250m)の材料費

→約7～8万円(耐用年数約10年！)

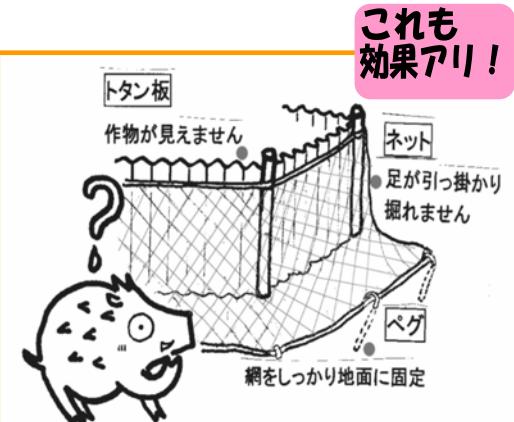
設置時間も大人数で1～2時間。何枚かの田畠を囲い、共同管理。→設置や草刈が大変な農家でも防除ができる！

鉄則3「狩猟や駆除で被害地の頭数を減らす」

条件が良いところではどんどん増えるイノシシ。被害が出た場所のすぐ近くで獲りましょう。

狩猟などの捕獲もお互いの緊張関係を保つ要素の1つ。でもハンターや駆除従事者となるには狩猟免許や登録が必要です。

市役所、町村役場にご相談ください。



魚網などで奥行き、トタンで視覚を遮断！



▲イノシシ用の捕獲おり

錯誤捕獲防止用の穴が開いています。

残念ながら効果がないと分かっているもの…

木酢液、髪の毛、ラジオ、爆音機、センサー式防除機械、猛獣等の糞尿……などなど効果があっても一時的（環境の変化に警戒しているだけ）です。
イノシシはにおいや音、光を嫌うことはありません。

ツキノワグマ



●ツキノワグマの生態

『生息域』 … 本州、四国に生息。九州では絶滅しました。

『行動圏』 … 単独で行動します。「なわばり」がないので、複数のクマの行動する範囲が餌場などで重なり合います。30～110km²の範囲で移動します。

『からだ』 … 体重は40～130kg。体が柔らかく、30cm四方の穴をくぐりぬけます。

嗅覚・聴覚がするどく人間が気付く前にクマの方で察知します。

『食べ物』 … 雜食性だが植物質が主。冬眠前は山林内のドングリ等を食べ脂肪をつけます。

そのため、キャンプ場のゴミや農地の廃果等にも居付きやすく、人里周辺に居座りつづける原因になります。

『生活』 … 昼夜を問わず、活動と休息を繰り返します。本来、とても臆病なので、人里近くでは早朝と夜間に出現します。

クマの被害を最小限にする鉄則3

鉄則1 「クマを誘うような物は片付ける」

取残しの果樹の実や生ゴミ等は放置せず、指定の場所に持ち込んだり、深く埋めるなど処理しましょう。山に入った時も、お弁当やお菓子等のゴミを捨てると、人間の食べ物の味を覚えてしまうので、かならず持ち帰ること！



▲被害作物も片付けましょう！

鉄則2 「音をたてながら、複数で行動」

とても臆病ですが、ばったり出会ったりした場合には、事故が発生することがあります。山に入るときや山際を早朝や夜間出歩くときは、ラジオや鈴を鳴らしながら、複数で行動するなど、「人間の存在をアピール」しましょう。



電池でも車の
バッテリーでもOK！

鉄則3 「農地に入らせない近づけない対策を」

今は性能のよい、効果のある電気柵が多数あります。地域で電気柵を購入し収穫まぎわだけでも、設置するなど、皆でクマの被害を防ぎましょう。

人間に依存させないことが大切です。

電気柵 →

- ① 手前に複線を張ると、地面を掘ってくぐることが出来ません。
- ② クマが鼻先で探った瞬間、敏感な鼻に電気がビリッと伝わるのでとても効果的です。
- ③ 設置が容易です。



副線(奥行き)で！



高山村 小山 真吾 さん



自己紹介

- ・東京都町田市出身。
- ・里親研修制度を活用して
令和4年に就農しました。
- ・高山村でぶどう、りんごを
栽培しています。

➤ 就農のきっかけ

化学薬品メーカーで勤務していましたが、屋外で自然と触れ合いながら働きたいという思いが強くなり、農業への関心が高まりました。そんな中、豊かな自然に恵まれた長野県に心惹かれ、就農相談会や農業体験に何度も参加するうちに、高山村の雄大な山々の風景、人々の温かさ、そして果物の美味しさに深く感動しました。こうした体験を通じて「ここで農業を始めたい」という気持ちが確信に変わり、就農後のイメージを明確にできたことで就農を決意しました。

➤ 就農するにあたって

里親研修制度を活用し、2年間りんごとぶどうの栽培技術を学びました。実践的な経験を積むことで、自信を持って就農に踏み出すことができました。さらに、里親の方がほ場や棚、農機具の確保に尽力してくださったことで、スムーズに就農できたように感じています。また、地域内に困ったことを相談できる先輩農業者がいることは大きな支えとなっています。こうした人とのつながりが、農業を続けるうえでの安心感と励みになっています。

➤ 今後の目標

就農4年目を迎えて農地が拡充してきたため、今後は人手の確保や作業の効率化・省力化に力を入れ、生産の安定を図っていきたいです。また将来的には、一般の方を対象とした農作業体験や収穫体験の場を設け、長野県の果物の美味しさや農業の楽しさを知っていただけるような人と自然がつながる機会を作りだしたいと考えています。

地域のできごと

農村生活マイスター協会長野支部と上伊那支部の交流会を開催しました！

11月5日に信濃町に農村生活マイスター協会上伊那支部の会員の皆さんと、長野支部会員との交流に来てくれました。上伊那から信濃町・飯綱町・中野市への視察の中に交流会を組み込んでもらい、各支部の活動紹介とマイスター活動の魅力・やりがいなどについて意見交換を行いました。両支部会員とも若い世代への知恵や技術の継承に興味があるようでした。事務局としても他支部の活動を知り、担当する支部の活動につなげる良い機会となりました。

「他の支部ではこういう活動もしているのね。自分たちでもできそう、やってみたい」との意見もあり、新しい活動への取組みの第一歩になりました。

最後には長野支部会員が栽培した野沢菜と自然栽培のじゃがいもをお土産にお渡しました。

今後も会員同士や他支部との交流の機会を増やし、農村生活マイスターとしての活動の幅を広げていただきたいと思います。（地域第一係 矢崎）



千曲市の保育園児がさつまいもの収穫体験をしました

あんずのさと保育園の園児たちが、10月9日に千曲市生萱のほ場でさつまいも掘りを体験しました。この体験は、子どもたちに農業体験の場を与えることで、元農業委員の島田さんと農業委員会が中心となって行っています。当日は地元の農業委員、農村生活マイスター、地域の女性組織、千曲市役所関係者、支援センター職員らが子どもたちの応援に集まりました。

大人たちは、掘りやすいように株の周りにスコップを入れて土をほぐし、つるを持って引っ張る子どもたちを手伝いました。土からいもが顔をのぞかせると、子どもたちは目を輝かせて、「よしよ」と力を合わせて掘り出していました。今年も豊作で立派な「べにはるか」がたくさん採れました。収穫したさつまいもは、保育園で焼き芋大会や給食に使うほか、お家へも持ち帰るようです。終わりのあいさつの後、年長さんは残って、つるを使ったクリスマス用のリース作りに取り組んでいました。

（地域第二係 竹内）



地域のできごと

坂城町で「ねずみ大根まつり 2025」が3年ぶりに開催されました！！

11月9日に、大根収穫会場とさかき地場産直売所「あいさい」の2会場で、3年ぶり15回目となる「ねずみ大根まつり 2025」が開催されました。

開催式では、柳沢実行委員長、特別ゲストの塚本颶来さんと森青葉さんが開催宣言をされました。大根収穫会場には、収穫開始前から多くの皆さんが集まっており、収穫開始になるのを今か今かと待っていました。そして、収穫開始の宣言がされるとお目当ての大根を目指して畑の中に広がって次々と袋の中に沢山詰めていました。



さかき地場産直売所「あいさい」では、ねずみ大根などの農産物・加工品の販売、坂城特産ワイン、きのこ、焼き栗、焼き芋、シイタケ、ねずこんグッズなどの様々な商品が販売されました。また、会場内では、抽選会や原木きのこの収穫体験も同時に行われ来場者はとても楽しんでいました。

3年ぶりの開催ということもあり、沢山の方が来場され両会場ともにとても盛況でした。

(地域第二係 野溝)

農業士上高井長野支部 秋季研修会を開催しました！

11月16日に、農業士上高井長野支部 秋季研修会を実施し、今年は会員が経営するワイナリーの視察を行いました。当日は、会員7名が参加しました。

あいにくの天候でワインブドウの収穫は視察できませんでしたが、醸造所を案内いただきました。最低限の投資で小規模に醸造されており、器具や製造方法、販売の工夫などについて説明がありました。参加者同士の意見交換や交流も行われ、有意義な会となりました。

(地域第一係 二ツ山)



小布施町で長野地域の果物をPRしました！



長野地域振興局では、県内の果樹産出額の4割を占める地域の果物をPRする「ながの果物語り」の取組を行っています。

10月18日(土)、小布施町の大通りで開催された「小布施六斎市」にて、「ながの果物語り」のロゴ入り風船500個と果物のPR冊子等を配布して長野地域の果物の魅力をアピールしました。

昨年度に引き続きの実施でしたが、今年もお祭りのあちこちで風船を持ったお子さんがみられました。(農村振興係 中沢)

12・1月の予定

当支援センターで今後予定している、情報交換会や講習会等の日程です。

詳しい内容やお申し込みについては、各担当へお問い合わせください。

開催内容	概要	お問合せ先
トルコギキョウの魅力を知ろう！ 12月9日（火） 13時30分～14時30分 JAながの屋代支所2階会議室 （千曲市雨宮336-1）	トルコギキョウの魅力と春からの栽培セミナーを紹介します。初心者の方大歓迎！トルコギキョウ栽培に興味のある方、これから栽培を始めてみたい方、お待ちしています。	026-234-9536(担当:藤沢) メル 12月3日（水）  申込はこちらから
カイゼン手法活用推進研修会 12月9日（火）10時～16時 長野県総合教育センター 12月10日（水）10時～16時 長野合同庁舎別館大会議室	現状把握によって問題点を洗い出し、作業の効率化やコスト削減を図る「トヨタ式カイゼン手法」を使った「仕事の教え方」を学ぶ研修会を開催します。	長野県農政部農業技術課 TEL:026-235-7223 FAX:026-235-8392 担当：相田  申込はこちらから
プロジェクト発表 12月17日（水）14時～17時 長野合同庁舎501～503会議室	将来の長野地域の農業を担う農業青年が、日頃の農業実践活動の中で培った成果や農業、農村生活に関する意見発表会を開催します。	TEL:026-234-9536 FAX:026-235-8393 メル 12月5日（金） 担当：岩崎  申込はこちらから
信州の環境にやさしい農産物認証説明会 12月19日（金） 13時30分～16時50分 長野合同庁舎別館大会議室	「信州の環境にやさしい農産物」とは県内で栽培された特別栽培農産物を長野県知事が認証する制度で、この制度に関する説明会を開催します。	TEL:026-234-9514(直通) FAX:026-234-9513 Email: nagano-nosei@pref.nagano.lg.jp メル 12月15日（月） ①氏名②連絡先③栽培品目を電子メール、FAXまたは電話でお知らせください

トルコギキョウの 魅力を知ろう！

プレ

～はじめてでも楽しめるトルコギキョウセミナー～

美しい花づくりのヒントがここに

トルコギキョウの魅力と
春からの栽培セミナーを紹介します。
花づくりに興味のある方、これから栽培を
始めてみたい方、お待ちしています。

令和7年12月9日（火）
13:30～14:30

終了後～15:30まで
個別相談会開催！

JAながの屋代支所
2階会議室
(千曲市雨宮336-1)

◎トルコギキョウ栽培に
興味がある方

参加無料！

初心者大歓迎！お気軽にご参加ください

お申し込み（事前申し込み制）

参加ご希望の方は、お電話かQRコードからお申し込みください。

〆切12月3日(水) ☎026-234-9536

主催：長野農業農村支援センター 13



令和7年度カイゼン手法活用推進研修会参加者募集

現状把握によって問題点を洗い出し、作業の効率化やコスト削減を図る「トヨタ式カイゼン手法」は、従業員の人材育成にも活かされています。

講師にトヨタ自動車株式会社様を迎えて、カイゼン手法を使った「仕事の考え方」を学ぶ研修会を開催いたします。皆様、奮ってご参加ください!!

●主催 長野県農政部農業技術課

●講師 トヨタ自動車株式会社 新事業推進部
アグリバイオ事業部 現場改善グループ チーフエキスパート 重松 利一 氏

●研修日程、内容等

日時・場所	内 容	場 所	募集人数
12月9日(火) 10:00~16:00	・トヨタ生産方式の概要 ・2S ・見える化 ・ムダ発見 ・作業安全 ・仕事の考え方	長野県総合教育センター 第1研修室 (塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4)	50名
12月10日(水) 10:00~16:00		長野合同庁舎 別館大会議室 (長野市大字南長野南県町686-1)	50名

●受講料 無料。ただし、会場までの交通費は受講者負担になります。

●受講申込方法

- ①右側二次元バーコードまたはURLからForms申込フォームに接続して申込み。
- ②別紙申込書に必要事項をご記入の上、農業技術課担当者またはお近くの農業農村支援センター技術経営普及課へ送付。

【応募締切：令和7年12月1日（月）】

●問合せ先 長野県農政部農業技術課 担当：相田

〒380-8570 長野市大字南長野字幅下692-2

TEL：026-235-7223、FAX：026-235-8392、

メールアドレス：nogi@pref.nagano.lg.jp

研修会参加申込は、こちらから



<https://forms.office.com/r/Ts7tAuekRV>

【トヨタ式カイゼン手法とは？】

工場などの生産現場で、工程・動線・動作等を見直して作業効率を高めるなど、体系的な整理と、徹底したムダの排除により品質や作業性などを向上しコスト低減につなげる手法。

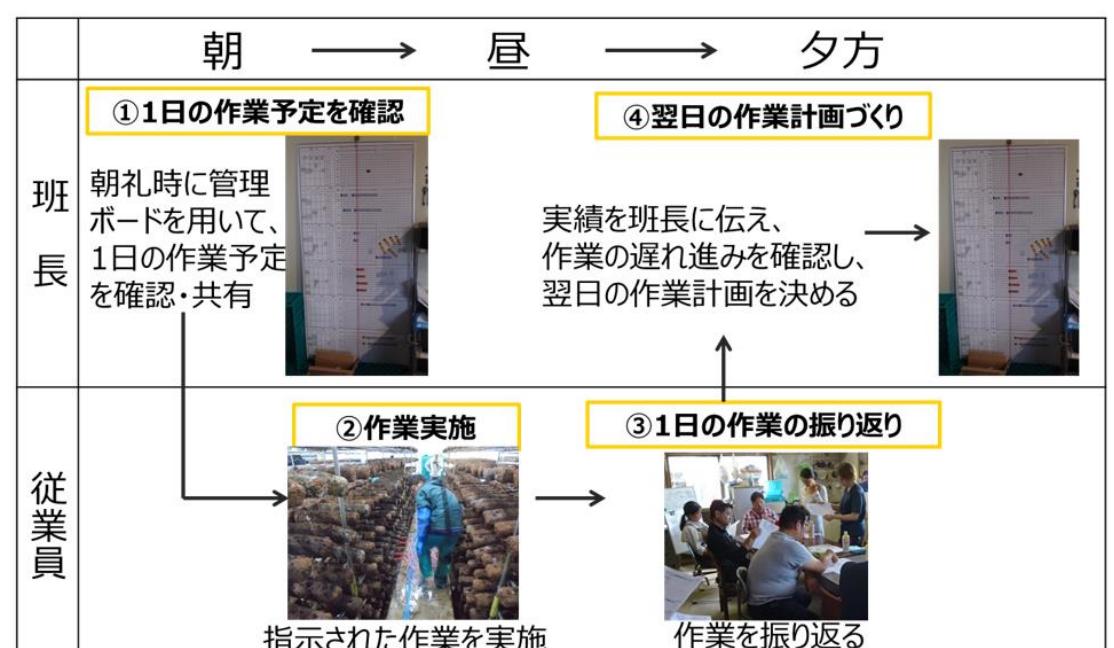


具体的な事例1 2S(整理・整頓)

効果：作業場や倉庫の道具、機械を整理・整頓することで、準備に係る時間の短縮や、作業動線の改善につながった。

具体的な事例2 朝礼・終礼の実施と 作業ボードの活用

効果：作業の年間・月別・週別計画の確認や進捗状況の把握のため作業ボードを作成。朝礼や終礼での作業員への円滑な指示出しやコミュニケーションツールとして活用



つどえ！農業人 In長野



令和7年度長野地域 農業青年プロジェクト活動・意見発表会

開催日時

令和7年12月17日（水）
午後2時～午後5時
(受付：午後1時半～)

場所



長野合同庁舎501～503会議室
(長野市大字南長野南県町686-1)

内容

- ①意見発表
- ②プロジェクト発表
- ③農業大学校・農業高校の発表

☆発表テーマ
デイワークとの作業分担
労働力確保に向けて
作業場のレイアウト変更

申込方法

令和7年12月5日（金）までに
QRコードから申し込みまたは
申込書をご記入のうえFAX等で申
し込みください



交流会



大会終了後、
交流会を行います！
場所：居酒屋4410
時間：午後5時半～
会費：4,000円

令和8年産 信州の環境にやさしい農産物認証 説明会を開催します

令和7年12月19日(金)13時30分～16時50分

「信州の環境にやさしい農産物」とは？

長野県内で栽培された特別栽培農産物※1を「信州の環境にやさしい農産物」として、長野県知事が認証する制度※2です。

認証された農産物は、県の認証番号を付した認証票（右下図）を使用し販売することができます。

※1 特別栽培農産物

その農産物が生産された地域の慣行レベル（各地域の慣行的に行われている節減対象農薬及び化学肥料の使用状況）に比べて、節減対象農薬の使用回数が50%以下、化学肥料の窒素成分量が50%以下で栽培された農産物です。（農林水産省HPより）

※2 本制度では、一部の果実に限り条件付きで、節減対象農薬の使用回数が70%以下（削減率30%以上）、化学肥料の窒素成分量が50%以下でも認証しています。

（りんご、ぶどう、なし、もも、とうとう、すもも（含むブルーン）、あんず）



50
長野県認証 No.50-〇〇〇〇〇
化学肥料の使用量、農薬の使用回数を
50%以上削減して栽培しました。

認証票（シボルマーク）
(認定区分50-50の例)

会場

長野県長野合同庁舎
別館2階大会議室

(長野市南長野南県町593-14)

内容

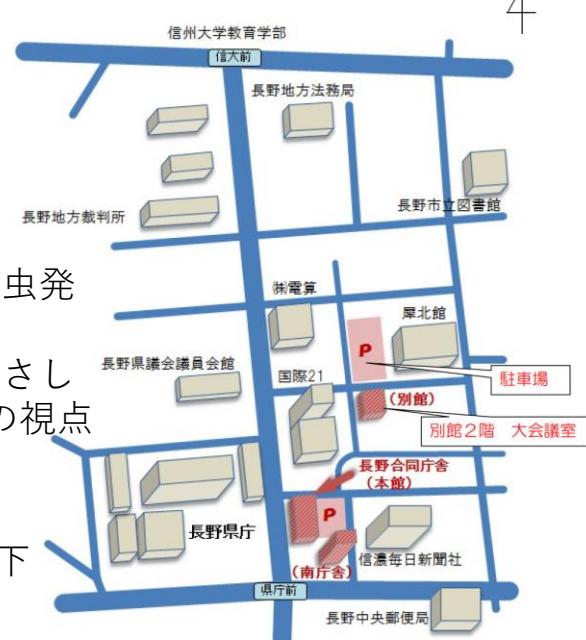
- ※認証制度の説明、申請書・生産計画書の作成方法について
- ※環境負荷低減事業計画認定（みどり認定）について
- ※令和7年の気象と生育状況、病害虫発生状況について
- ※講演「令和7年産信州の環境にやさしい農産物認証生産総括－審査員の視点から－」(仮題)

申込み

①氏名、②連絡先、③栽培品目を
電子メール、FAXまたは電話で下
記連絡先までお知らせください

申込締切 ⇒ 12月15日（月）

長野県長野合同庁舎別館 案内図



【連絡先】

長野農業農村支援センター農業農村振興課生産振興係（担当:春原）
電話 026-234-9514（直通） FAX 026-234-9513
Email nagano-nosei@pref.nagano.lg.jp

スノハラ

伝える、

つなげる、

ふるさとの食育

農村未来つなげる フォーラム2026

1月15日(木)
13:00-16:00

会場:長野県庁講堂
定員:200人

物品販売@県庁ロビー
11:30-12:50

各地域の食文化に関する展示

講演

「伝える、つなげる、ふるさとの食」

長野県立大学健康発達学部食健康学科 中澤弥子 教授
豊かな長野県の食文化は、大切な財産ですが時代とともに失われつつあります。地域に残る食文化の実例や、それを後世に残すための取組みからふるさとの味を未来へつなぐためのヒントをお話しいただきます。



ワークショップ

「伝えたい、つなげたい、ふるさとの食」

あなたがつなげてきた食文化。次は誰にどうやってつなげよう。
まわりの人と話合うことで、「つなげる」ヒントを見つけてましょう。
複数人のグループに分かれて意見交換をおこないます。
筆記用具をお持ちください。

参加無料
申込みは
コチラから



参加申込書

- ・オモテ面のQRコードまたは参加申込書によりお申し込みください。
- ・枠内にご記入の上、事務局へ郵送・FAX・E-mailでお送りください。（あて先はチラシ下部のお問合せ先参照）
- ・定員に達し次第締め切ります。
- ・申込期限：令和7年12月25日（木）

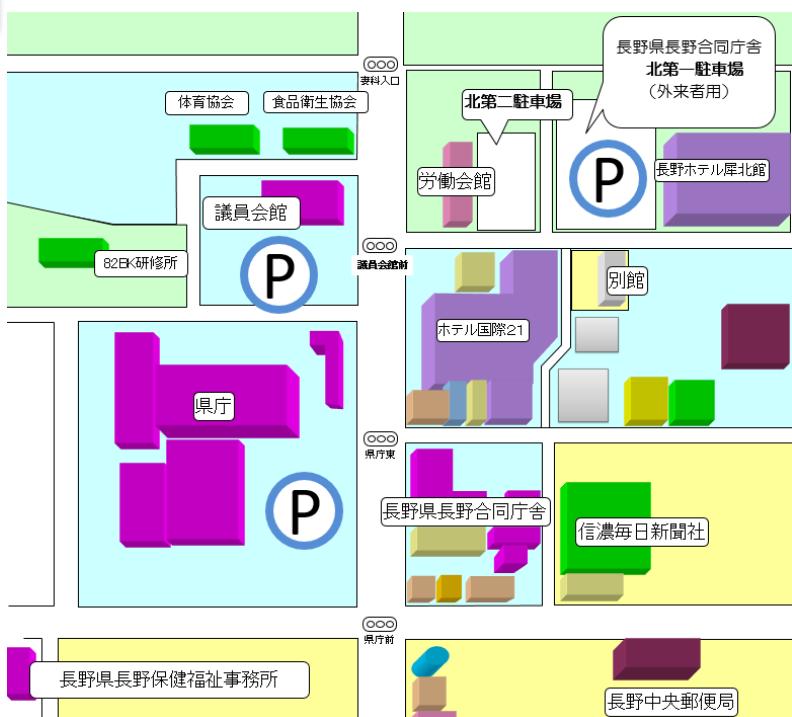
(ふりがな) 氏名	
所属団体	
ご連絡先 電話番号	
メールアドレス	@

駐車場について

右図の駐車場をご利用ください。

ただし、数に限りがありますので、公共交通機関の利用にご協力ください。

他施設や路上への駐車はご迷惑になりますのでお控えください。



【お問合せ先】長野地域農村女性団体連携会議 事務局 長野農業農村支援センター技術経営普及課
〒380-0836長野市南長野南県町686-1 TEL: 026-234-9515 FAX: 026-235-8393
E-mail: nagano-aec@pref.nagano.lg.jp